

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	多様な学習形態を、児童一人一人の実態や課題に即して計画的に取り入れるとともに、形成的な評価を効果的に指導に生かすことで「分かる」授業を目指す。	中間評価	少人数習熟度別の学習や日本語習得のための取りだし授業などに取り組んだ。授業の終わりに振り返りをすることで評価に生かした。	最終評価
		ICTの活用の仕方を検討したり、読書活動の充実のさせ方を検討したりしながら、児童が主体的に学習に参加できる授業の実践を行う。		授業の中で根拠に基づいた考えを形成し、意見を共有することで、主体的に学ぶ姿勢が身に付きはじめた。	

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学 音読に意欲的に取り組んでいる。登場人物の気持ちを考えた音読の工夫を楽しめる。 文字（ひらがな・カタカナ・漢字）を正しい筆順や活用で書ける児童（2/3）、書けない児童（1/3）程度いる。助詞の活用の仕方も同等。 発表は非常に意欲的であるが、話を正しく聞き取ることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を捉えた音読。（文字を追うだけの児童がいる） 文を書く際、正しく、ひらがなの拗音や促音、カタカナ、漢字を使うことに課題がある。 「てにをは」を正しく使うことに課題がある。 友達の考えを聞く姿勢が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙（新出・曖昧な理解）の確認を確実にを行う。 小テストや継続的な宿題、確実に覚えるための学習時間を確保する。 興味をもって話を聞けるように、スピーチや連想ゲーム問答ゲームなどを通して、短い話を確実に聞き取る練習を行う。 		
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学 自分の考えややり方を発表することが好きな児童が多い。 単純な計算問題を解くことはできるが、問題の形式が変わると、何を答えればよいか分からない。 課題解決への時間の差が広がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の際に自分の考えをもつことができない。 既習事項に定着の差があり、既習事項を生かして次の学習へ進むことが難しい。 言葉の習得に差があり、課題を把握できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を振り返ることができるような、掲示物を作成し見直すことができるようにする。 少人数の学習を行い、確実に定着するよう指導をする。 放課後学習の取り組みを生かし、苦手な児童への個別の指導を進める。 		
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学 登場人物の気持ちを考えて、工夫して音読を楽しむ児童が多い。 学 授業中、すすんで手を挙げて自分の考えを発表することができる。その際に、相手を見て聞いたり、話したりすることができるようになった。 学 相手の話を聞いて、適切な質問をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「てにをは」やひらがなの拗音や促音、カタカナ、漢字を正しく用いようとするに課題がある。 文章を読んで、感想を書くことに苦手意識をもっている児童がある。 分かりやすくまとめて話すことが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「てにをは」やひらがなの拗音や促音、カタカナ等を意識させながら作文を書く機会を多く設けたり、新出漢字の練習をする時間を確保したりする。 毎週の日記を続け、文を書くことを習慣化していく。 初発の感想と読後の感想を考える時間を設けたり、児童の感想を共有し合う場面を増やしたりして一人一人に感想が持てるように工夫する。 スピーチや発表の機会を増やし、適切な話し方の指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文や日記、ワークシートにて、文章を書く際に、7割の児童は、ほぼ正しく「てにをは」や拗音や促音を書くことができる。カタカナや漢字については、国語の言語に関する単元などを通して定着させていく。 文を書くことについての抵抗がなくなってきた。 一人一人が自分なりの感想をもてるようになった。 楽しくスピーチをしたり、発表をしたりすることができるようになってきた。相手を意識して、伝えたいことが伝わるように話すことを目指す。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学 計算問題を正確に解くことができる児童が多い。 学 授業中、すすんで手を挙げて自分の考えを発表することができる。 学 家庭学習の取り組みは、ほとんどの児童ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算問題を解く速さに差がある。 題意を理解して解決に取り組むことに課題がある。 個別指導を要する児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元によって、習熟別に行ったり、個別指導を行ったりと学習形態を変える。 ICTを活用して視覚化して題意を理解して課題解決ができるようにする。 放課後学習で個別指導をしたり、家庭学習等で繰り返し計算問題の練習をさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別学習により、算数が苦手な児童が問題に自分から取り組めるようになってきた。 家庭学習や放課後学習等で算数の復習プリントやドリルを活用することで、学習内容の習熟を図ることができた。 ICTやプリント資料を活用することで、児童が自力解決できるようになってきた。 	
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> 調 漢字の読み書き、物語文の読み取りは、区・全国の平均に近い結果を得ている。漢字の定着に向けたビンゴ学習や定期的な小テストの効果が出た。音読も継続的に行うことにより、文章の読解力向上へつながった。 調 文章を書く、語彙力については、区・全国の平均よりも下回っている。 学 文章を書くことに対しての抵抗感はない。ただ、設問に対して題意をくみ取って答えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取ったり、書いたりする力の個人差が大きい。 漢字を適切に書くことが課題である。 順序立てて話したり、要点を押さえて聞いたりすることが課題である。 語彙の習得数を多くすることが必要である。 文の構造を身に付け、適切に文章に起こすことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の時間を活用して、読書に親しみ文章に慣れさせる。 朝学習や放課後学習、家庭学習を通して漢字の定着を高める。 朝や帰りの会、各学習活動の中で、話型指導、聞く姿勢の指導をし、話すこと・聞くことの力を高められるようにする。 辞書を個別に用意して日常的に調べられるようにする。 文章を書く機会を増やして文章力を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書については、朝読書用図書や学習に関連する図書を教室に用意するなど、読書に親しみやすい環境を整えた。 漢字学習は、小テストでの得点は上がってきた。普段のノートやワークシートの記述で既習の漢字を使うことができるように声を掛けていく必要がある。 辞書を使うことに慣れてきた。 主人公の心情の読み取りや説明文の要旨など、根拠に基づいて意見を言えるようになってきた児童が増えた。自分の思いのみで考えている児童には、なぜそう考えたのか、問い返すことで、根拠に基づいて考えられるようにしていく。 	

	算数	<p>調基礎的な計算(加法・減法・乗法)については、平均値に達してはいないが、近い結果を得た。計算力が身に付いている児童が多いが、基礎・基本の計算力が定着していない児童もいる。</p> <p>調量と測定に関する平均値が大きく区・全国の平均を大きく下回る結果となっている。</p> <p>学時間や長さ等、日常的に使っている場面を見かけるものの、単位の相互関係や算数的な活用は十分とは言えない。また、それらを問われている文章の理解が難しい。国語とあわせて読解力を向上させ、量と測定に関する単位の相互関係の理解を深める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着度の個人差が大きい。 文章題に苦手意識がある。言葉の習得に個人差があり、内容を読み取れない児童がいる。 時間、長さ、かさ、重さをイメージして考えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の学習では、レディネステストを使ってクラス分けを行い、個に応じた問題数で繰り返し練習をし、基礎・基本の定着が図れるようにする。また、児童の実態に即して、発展的な学習もできるようにする。 問題の中に生活場面を入れることで、身近なことで習得した学習事項を活用することができるようにする。 長さや重さ等、具体的な物を操作する算数的活動を多く取り入れ、具体的なイメージをもって考えられるようにする。 単元にとらわれない、継続的な繰り返し学習を適宜取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の学習を繰り返してきたことで、どの児童も自分のペースで安心して学習に取り組み基礎基本を定着することができた。 計算など、技能面は定着しているが、数の捉え方など、思考面ではとまどう児童がいる。具体的な場面で具体物を用いながら、丁寧に組み立てる必要がある。 宿題や家庭学習で復習に繰り返し取り組んできた。九九の習得は休み時間も利用して繰り返し取り組み、スムーズに暗唱できるようになってきた。
4	国語	<p>調正答率は、目標値と同等のものもあったが、「関心・意欲・態度」は8ポイント、「書く能力」は15ポイント低い。</p> <p>学興味・関心はどの児童ももっているが、「書くこと」「聞くこと」など、一人で集中し取り組むことに関しては、極端に興味・関心が低くなる。また、語彙が不足していて、分かりやすい説明が十分にできていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を適切に書くことに課題がある。 他人の考えに興味・関心をもって耳を傾けることに課題がある。 自分の考えの理由を説明したり、順序立てて話したり、要点を押さえて聞いたりすることが課題である。 文章を読み取ったり、書いたりする力に関して個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や放課後学習、家庭学習を通して漢字の定着を高める。 根拠に基づいて自分の考えを表現できるように指導する。 朝や帰りの会、各学習活動の中で聞く姿勢の指導をし、話すこと・聞くことの力を高められるようにする。 家庭学習で漢字の繰り返し練習を徹底し、習得できたことを実感できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習については、学級の3分の2の児童が家庭学習等で反復することにより、学習の仕方が身に付きつつある。引き続き、反復練習をさせながら定着度を高める。 「どうしてそう思ったか」などの聞き返しを意図的に行うことで、根拠に基づいた表現ができるようになった。 「話を聞く、活動する」とメリハリをつけて指導することで、切りかえができるようになった。また、見通しをもたせることで、心構えができ、話を聞いて行動に移せるようになった。引き続き指導を行う。 単元テストの分析を前単元で行い、次単元で生かした。
	算数	<p>調正答率がどの項目でも目標値を下回ったが、かけ算は目標値とほぼ同じだった。昨年度、徹底して九九練習に取り組んだ成果である。「数学的な考え方」と「数量や図形についての知識・理解」はそれぞれ6ポイント低い。</p> <p>学児童も意欲的に取り組んで学習している。ただ、問われている文章を正しく読み取れず、どう答えればいいのか分からないで手が止まっている児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章題に苦手意識がある。言葉の習得に個人差があり、内容を読み取れない児童がいる。 分度器等の用具の操作の技能習得に、個人差がある。 基礎・基本となる内容の定着が十分でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業では、実態に応じた学習過程を行い、「振り返り」を意識し、スパイラル的に進めていく。 分度器等の用具の操作の時間を多く設定し技能が習得できるようにする。 問題の中に生活場面を入れることで、身近なことで算数の力が活用できるようにする。 放課後学習や家庭学習で、基礎・基本となる問題を繰り返し行い、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に前時の振り返りを行い、想起させながら本時の学習を進めることで、8割の児童が発言できるようになり、意欲的に学習を進められるようになった。 前学年までの学習内容の定着に向けて、単元の導入に復習に取り組んだことにより、既習事項、基礎・基本の定着が図られつつある。 放課後学習や家庭学習で、過去の問題などの反復を行うことで、6割の児童の基礎・基本が定着できた。 単元テストを返却後、復習の時間をとり、再びテストを行うことで、児童自身が習得を実感できるようにした。
5	国語	<p>調すべての項目で目標値は上回っているが、書く能力と言語についての知識・理解・技能については、区の平均正答率をわずかに下回っている。問題の内容別正答率を見ると、言葉の学習は区の平均正答率より8ポイント低くなっている。</p> <p>学意欲的に学習活動に取り組むことができる。手を挙げて、自分の考えや思いを発言する児童も多い。一方で、自分の考えや思いを書くことが苦手の児童が少なくな。また、漢字の書き取りについても個人差があり、個別指導が必要である。読むことに関しては、叙述を基に登場人物の人物や人間関係について考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言語に関する理解に差がある。 全体的に文章を書くことに課題がある。目的に応じて読み手に伝わるような文章を書くことが現段階では難しい。 読解力に個人差があり、個別の声掛けが必要である。 積極的に発言できる児童は多いが、内容を整理して、分かりやすく話せる児童は少ない。 相手の話を聞き、正しく内容を理解することに関して課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りなど言葉に関する学習を繰り返し行い、習熟を図る。 様々な場面において自分の考えを書く場面を設ける。その中で、書き方に関する基礎・基本を身に付けさせる。 朝読書をはじめ、読書の機会を設定し、文章の内容を正しく読み取る力を育てる。 小グループによる活動など、自分の考えや思いを話し合う機会を意図的に設定する。 聞いたことを人に伝えたり、文章に書いたりする活動を取り入れ、目的意識をもって話を聞けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字など言葉の学習に関しては個人差が見られるので、個別対応の指導を継続して行う。 自分の考えや思いを書く機会を数多く設定したことで、目的意識をもって自分なりに書けるようになった。今後は、漢字を使う、正しい文法で書く、読み手を意識して書くなど、より相手意識をもって書けるようにする。 読書が苦手の児童も、以前より主体的に読書する姿が見られるようになった。 小グループで話し合う活動を継続して行ったことで、目的意識をもって話したり聞いたりすることができるようになってきた。
	算数	<p>調すべての項目でわずかではあるが目標値を下回っている。観点別で見ると、すべての項目で区の前年度より5ポイントほど低くなっている。問題の内容別正答率で見ると、面積に関しては、区の前年度より6ポイント高くなっているが、それ以外は平均より低い結果となっている。</p> <p>学国語と同様、意欲的に学習に取り組む児童が多い。習熟度別で学習を行っているため、自分のペースで学習に取り組むことができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計算力をはじめ、基本的な知識・技能の定着に個人差が見られる。 文章問題に対して苦手意識をもっている児童がいる。文章の意味を正しく理解して、問題を解くことができるようにすることが必要である。 自分の考えを整理して、分かりやすく説明できる児童が少ない。 既習事項の定着に差があるため、個別指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容を繰り返し行い、その定着を図る。 話し合いや意見交換、発表を通して、児童同士が学び合える環境づくりを行う。 自分の考えを書いたり発表したりする場面を設定し、児童が目的意識をもって学習活動に取り組めるようにする。 掲示等を工夫し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 より効果的な習熟度学習や個別指導を行えるように、クラス分けや指導方法など工夫する。 放課後学習等で個別指導を行い、既習事項の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人差は見られるが、繰り返し指導を行うことにより、各単元で学習内容の理解を深めることができた。さらに確実に定着させるためには、年間を通してより計画的に復習をしていく必要がある。 授業の中で児童が学び合える環境をつくることで、互いに教え合う姿が見られた。 ICTを活用することで、学習内容の理解が深まった。 習熟度別学習を行うことで、理解度に応じて児童のペースで学習を進めることができた。苦手意識のある児童も、主体的に学習に取り組めるようになった。 放課後学習における個別指導により、徐々にではあるが、既習事項の定着を図ることができた。

	<p>国語</p>	<p>調観点別では「書く能力」が目標値からは 15 ポイント、区平均からは 22 ポイント下回っている。「言語についての知識・理解・技能」「関心・意欲・態度」が次いで低く、いずれも 10～15 ポイント下回っている。前年度との経年変化を見ると、平成 30 年度は区平均との開きが、わずかではあるが縮まった。</p> <p>学学習に対して、めあてをもち、課題解決に向けてねばり強く取り組む姿勢が身に付いた。日々の意欲的な学習姿勢が、各単元のワークテストの結果にも成果として表れている。また、物語文の読み取りにおいては、登場人物の心情を感性豊かに表現する児童が多い。ワークテストの状況を見ても、一定の成果を上げている。ただ、外国にルーツをもつ児童の割合が多いことが起因しているのか、言語に関する学習の定着については個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業における学習規律、及び、家庭における学習習慣がまだ確立・定着していない様子が見られる。 授業中の発言、自力解決等、意欲的に取り組む児童が多いが、個人差もある。 文章構成や語句の使い方を手がかりに、筆者の主張、主題や要旨を読み取る力がやや不足している。 問われていることを的確に捉え、自らが伝えたいことを効果的に表現するための文法(主語、述語、接続詞等)が身に付いていない。 漢字の習得に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問、指示を工夫し、児童同士の充実した学び合いを促せるようにする。 話型を活用し、考え・意見を発表し、交流する場を設けることで、児童自らの考えや意見を相手に伝えられるようにする。 作文の書き方の基礎・基本の指導を徹底する。 説明文の指導において以下のことを重点的に行う <ul style="list-style-type: none"> 文章構成を捉える。 ・事実と意見を弁別する。 主張や主題を捉える。 ・文法を理解する。 要約文を書く。 話し合いや意見を交換する活動を取り入れ、考えを発表する場を作る。 音読を繰り返し、聞き手を意識した声の出し方を練習する。 朝学習や放課後学習、漢字検定等を通して、漢字の定着を図る。 毎日、書く活動を取り入れ、自分の考えを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果と分析を指導に生かす。特に、考える力、書く力、発表する力、話し合う力、自己評価する力、めあてを設定する力をより一層高めていく。 1時間の授業の展開の中に上記の6つの視点を具体化する場面を設定する。 単元テストの分析(観点別の得点分布・平均点から)を全単元で行い、次の単元の指導に生かした。 学習規律の定着が図られた。 課題解決型の学習に対して、学び方が身に付いてきた。 正しい文法で、段落を意識した文が書けるようになった。 順序を表す言葉や段落の構成など文章を読み取るために必要な事項に着目したり、見付けたりするよう指導する。 何のために、何を読み取るかを明確に示した上で、必要な箇所にはラインを引かせるなど原因や根拠を探す方法を指導する。 疑問に思ったことや、最も重要だと思われる部分などを書き出させる。 読み取った内容に対して、自分なりの意見をもたせ、表現させる。 	
6	<p>算数</p>	<p>調観点別を見ると、すべての領域で、目標値、及び、区平均を 6～13 ポイント下回った。特に、「図形」が最も低い結果となった。また、前年度との経年変化を見ると、平成 30 年度は「数学的な考え方」の正答率が 10 ポイント低下する結果となった。</p> <p>学基礎的・基本的内容の徹底に向けて、スモールステップでの学習、及び、ICT 機器の活用が効果的で児童も意欲的に取り組んでいる。ただ、基本的な知識、技能の定着に向けて個別指導が必要な児童が多数いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律、学習習慣の定着においては、国語と同様である。個別指導を要する児童の割合が多く、習熟度別の指導を効果的に活用し、充実させていくことが必要である。 基本的な知識、技能の定着においては、個人差がかなり見られる。 問題場面をとらえたり、既習事項を活用して問題を解決したりする力がやや不足している。 自分の考えを式や図、言葉を使い説明できる児童の割合が少ない。 四則計算が正しくできず、分数や小数の計算でつまずきが見られる。 既習事項が十分に定着していないため、完答に結び付くまでに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに考えを伝え合い、話し合うことにより、自らの考えや集団の考えを高め、発展させられるような授業展開ができるよう工夫する。 課題提示を工夫することによって、児童に解決の見通しをもたせ、自ら学んでいけるようにする。 算数的活動を工夫することによって、課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学んでいけるような学習活動を推進する。 学習の振り返りの活動を授業の中に位置付け、成果の確認や次の学習への見通しをもてるように習慣付ける。学習内容の定着を図るため、ドリルやプリント等で繰り返し練習を行う。 問題解決型の学習を計画的に取り入れる。 問題を数直線や図等に表し、解決させる指導を繰り返す行う。 習熟度別の学習ではレディネステストを使ってクラス分けを行い、個に応じた指導をする。 朝学習や放課後学習、補習の時間等を使って、基礎・基本の定着を図る。 ノート指導を通して、理解が深まるまとめ方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果と分析を指導に生かす。特に、問題文の情報を比較したり関連付けたりして読み取る力や、限られた情報から問題の答えを推論して解決する力を身に付けられるようにする。また、習熟度別指導において基礎・基本の定着を図るために、ICTの効果的な活用、指導事項のスモールステップ化、補習の実施等、より丁寧な指導を講じる。 単元テストの分析(観点別の得点分布・平均点から)を全単元で行い、次の単元の指導に生かした。 前学年までの学習内容の定着に向けて、単元の導入に復習に取り組んだことにより、既習事項、基礎・基本の定着が図られつつある。 課題解決に向けて、考えを巡らせて解法を探り、ねばり強く解決しようとする姿勢が身に付いてきた。 作業的学習を多様に取り入れる。(操作活動、図表の制作等) グループ学習や集団学習を多様に組み込む。(協力して学ぶ場、話し合える場) 単元の終末に、学習のまとめ、復習の時間を設定し、学習内容の定着を図る。 	
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も音に親しみ、表現活動を楽しむことができる児童が多い。読譜力には個人差がある。 低学年、中学年:音楽活動に対しての意欲がある児童は多い。技能の定着に関しては個別指導が必要な児童がいる。 高学年:生き生きと表現しようとする姿がみられ、豊かな響きで歌うことができている。ただ、音楽的な知識や技能の習得には差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生:学習のルールやマナーの徹底に課題がある。 3年生:無理のない発声で正しい音程で歌うことに課題がある。 4年生:リコーダーの運指やタンギングの習得に差がある。学習規律の徹底に課題がある。 5, 6年生:リコーダーの運指やタンギングの習得に差がある。旋律やリズムを根拠にして表現方法を工夫したり、楽曲の特徴を述べたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生:良い姿勢の例を合言葉で示し、できている児童を積極的に称賛するとともに、まだ十分にできていない児童には個別の声掛けをする。 3年生:歌唱指導の際には、音の高さを手で表す等の活動を取り入れ、学習のめあてを意識した歌声で歌うよう、日々声掛けをする。 4年生:全ての児童が運指を覚えながら楽しく活動できるようにリコーダーリレーを取り入れたたり、個別指導をしたりする。 5, 6年生:全ての児童が運指を覚えながら楽しく活動できるようにリコーダーリレーを取り入れる。旋律やリズムなどの言葉の意味を確認し、それらと楽曲の特徴を結び付けられるよう、発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律を守ることができるように、担任と連携しながら毅然とした態度で指導していく。 3年生:正しい音程で頭声法で歌うことができるようになってきた。響きのある声だが、声量が十分でないため、口の開け方を意識した指導を行っていく。リコーダーでは、滑らかなタンギングを身に付けられるよう、きれいな音色で吹いている児童を取り上げ、息の入れ方やタンギングを全体に意識させていく。 4年生:リコーダーを苦手と感じている児童も前向きに練習に取り組む姿がみられ、技能の個人差が縮まってきた。 5, 6年生:周年行事を通して、一人一人の技能を高めることができた。音楽的知識については、継続して指導をしていく。 		

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図工の時間を楽しみにして、つくり出す活動を楽しんでいる。 ・低学年・中学年：時間を惜しんでつくり続けている。 ・高学年：つくったものを早く持ち帰りたいと発言する児童が多く、作品を大切にしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体から平面へ、平面から立体へ、見方を変えることに課題がある。 ・次にどうなるのか、学習活動に見通しをもつことに課題がある児童が少なくない。 ・図工や他教科での既習事項と、現在の学習活動を関連付けてとらえることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する題材(粘土で立体につくったものを絵に表す、あるいはその逆など)を意図的に配置する。 ・指示や板書を工夫し、学習の見通しがもてるようにする。 ・全体や個別の指導の際に、既習事項や身近な事象との関連について、常に示唆するよう心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体表現と絵に表す活動を関連させた題材では、児童が積極的に学習に取り組んでいた。 ・高学年は制作に費やす時間の配分を意識した発言が見られるようになった。 ・既習事項や他教科との関連付けについて、継続して働きかけていく。 	
<p>特支</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心のある課題や課題の進め方に見通しがもてていると、集中力を維持させて取り組むことができる。 ・繰り返し課題に取り組むことで学習したことを積み上げることができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心の範囲が限られている為、課題が変わると集中が持続させることが難しい。 ・パターンをよく覚えることができるが、覚えたことを他の学習に広げることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心と、身に付けさせたい学力と結び付けるための教材選びや提示方法の工夫をする。 ・覚えたことを色々な学習で活用できるような課題設定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心や認知特性に応じて、日常生活に生かすなどの動機付けや視覚的支援を行うことで課題に集中できる場面が増えてきた。 ・学習内容の定着には更なる繰り返しの取り組みが必要である。 	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。